

お助け 福祉用具

水回り用車いす
6輪タイプ



トイレ、シャワー浴、室内の移動と、住宅内のさまざまな場所で使える介助用車いす。

トイレではウォシュレットが使える。浴室の出入り口や家の中の77までの段差が乗り越えやすい。狭い幅でも走行できるよう横幅がコンパクトになっている。(幅470^{mm}×全長797^{mm}×高さ942^{mm})。TOTO製

介護リフト
つるべシリーズ



ベッドからの移動や、更衣室から浴室への移動を補助する介護リフト。介助者の肉力の軽減と、利用者の安全な移動をサポートする。壁に設置するタイプのほか、壁面や床面に穴を開けずに組み立てられるタイプも。介護保険でのレンタルが可能。粉米リフト製。

トイレが住宅外に設置されていることも多いが、専門家は問題点を指摘する。高齢者の住宅のリフォームを多く手掛ける㈱ラムハウジングの川上晃奈さんは「室外のトイレや浴

室内ではトイレが住宅外に設置されていることも多いが、専門家は問題点を指摘する。高齢者の住宅のリフォームを多く手掛ける㈱ラムハウジングの川上晃奈さんは「室外のトイレや浴

和室をトイレと浴室に改装

トイレや風呂場が外にあったりさん宅。改修で室内にトイレと浴室を設置した。



改装後、妻室から、浴室とトイレを別々に設置した。浴室はユニットバスでコンパクトに収まっている



改装後は6畳の和室。杖や手すりを使って歩行するりさんにとって、トイレは狭みの構だった

川上さんは「お客さんの中には、トイレや浴室を改修したことで自分で車いすで移動できるようになり、それが励みになったりさんの方もいます。住宅が住む人に与える影響は大きい」と住環境の重要性を話した。(栗野川里奈子) 毎月第1・3日曜日に掲載



沖縄住宅のバリアを解消

戸外のトイレや浴室、ピロティ

体が弱ったり介助が必要になった時、県内の住宅でバリアになりやすい箇所として、戸外に設置されたトイレや浴室、1階が駐車場となっているピロティ住宅がある。バリアを解消する方法や費用の目安を聞いた。

トイレで大事なのが、移動距離が長くなる動のしやすさ。年を取ると立ち座りや歩行に時間が掛かったりトイレが近くなることが多いので、なるべく移動距離は短い方がいい。トイレが寝室から遠い場合は、トイレの近くに部屋を移すのも一つの方法。

和室は、移動距離が長くなる上に、履物を履く動作も必要になり転倒のリスクが増える。介助が必要な場合は、介助者の負担も重くなるので、できれば室内に設置し、また、広さにも配慮が必要。ある程度の広さが無いと、トイレの利用が難しくなるケースも、車いすや介助が必要な場合、理想的なトイレの広さは1.2^m×1.8^m。できれば浴室や洗面室と一体型にする、使い勝手がいいスペースも取りやすい」とアドバイスする。

ピロティに昇降機 このほかに、気を配らなければならないのが、階段を上るのが難しくなった場合、有効なのが階段昇降機。ホームエレベーターの設置は、昇降機は、いすの台座に乗って電動式で昇降する機械で、設置費用は外付けタイプで数万円、ホームエレベーターは約10万円。ホームエレベーターは設置スペースと工事が必須になるため、設置を検討する際は新築時にスペースを取っておくとコストを抑えられる。

の方がいい」と提案する。同社で居室の一部にトイレや浴室を設置するリフトは、150万円が目安という。ただし、トイレを設置するには●×●、浴室とトイレを設置するには●×●以上の上スベーターが必要で、配管によっても工費は変わる。また、広さにも配慮が必要。ある程度の広さが無いと、トイレの利用が難しくなるケースも、車いすや介助が必要な場合、理想的なトイレの広さは1.2^m×1.8^m。できれば浴室や洗面室と一体型にする、使い勝手がいいスペースも取りやすい」とアドバイスする。

いのが安閑園。県内では、1階が駐車場になっているピロティ住宅も多いが、階段と移動距離の長さが外出を阻むこともある。階段を上るのが難しくな